



尚綱大学・尚綱大学短期大学部

学長 山縣 ゆり子

プロフィール

昭和27(1952)年、兵庫県赤穂郡生まれ。大阪大学薬学部卒業後、昭和55年大阪大学大学院薬学研究科博士課程修了(薬学博士)。昭和61年大阪大学薬学部助手、助教授を経て、平成13年より熊本大学大学院薬学研究科、医学薬学研究部、生命科学研究部の教授を務め、平成25年4月から4年間熊本大学副学長(男女共同参画担当)を経て、平成30年3月熊本大学を定年退職。平成30年4月熊本大学名誉教授。

平成元年8月から1年間カリフォルニア大学パークレー校客員研究員。平成18年10月から現在まで日本学術会議連携会員。

令和2年4月、本学学長に就任。

専門は構造生物学、蛋白質科学。

— 就任にあたっての心境と尚綱大学の印象についてお聞かせ下さい。

130年以上の歴史と伝統のある尚綱学園により設置された女性の高等教育機関の学長に就任しましたことは大変光栄に思いますとともに、その使命と責任の重さに身が引き締まる思いで一杯です。教職員、学生のみなさんの学園や大学への思いを感じることを心掛けたいと思っております。教職員のみなさんはとても親切でにこやかに、そして適確に仕事をされています。新型コロナウイルス感染症の拡大のため、就任以後、学生さんの姿を見ることも、まして話をする機会もほとんどありませんでしたが、私がそれぞれ1回遠隔授業で担当した基礎セミナーや熊本学の課題の提出状況や学生さんとの対話から、真摯に学ぼうとする姿勢が感じられうれしく思っています。

— 132年の歴史を持つ尚綱学園が果たすべき役割についてお聞かせ下さい。

これまで多くの活躍する女性を地域社会に送り出してきた歴史と伝統をもち、さらに史上はじめての少子高齢化社会を迎えている我が国における女性の高等教育機関としての役割は非常に大きいものがあります。現代社会は多様な人材が求められており、女性の活躍について益々期待が高まっているなか、我が国のジェンダー・ギャップ(男女格差)指数は国際的にみて

不十分です。本学園の建学の精神「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」と教育理念「尚綱 表面を飾らず内面の充実努める」に基づき、生涯にわたって研鑽を重ね、人間性を尊重し社会に貢献する女性を育成することが揺るぎのない本学園の役割だと考えております。

— 学生に望むことや、励ましのメッセージをお願いします！

基礎セミナーで、4年間または2年間の目標と抱負をCOMPASS 2020の7ページに記載したことと思います。時々、特に、苦しいときやどうしたらいいか迷ったときなどにそれを読み直してみてください。本学園の建学の精神や教育理念、それに則った本学の使命・目的は、学生生活の大きな支えになってくれます。私は、何かにつけ、考えたことや行ったことなどをメモしていますが、何かの時、それを読み直して、こんな楽しいことを考えていたんだと微笑んだり、何とかなるんだとちょっとなくしていた自信を取戻したりしています。みなさんもがんばったことや楽しかったことを大切にしてください。最後に、今、世界中で猛威を振っている新型コロナウイルス感染症拡大に対して、正しく立ち向かいましょう。

山縣ゆり子学長の素顔に迫る ずばり突撃！ 山縣学長ってこんな人！

Q. 趣味は？

A. 音楽や演劇鑑賞です。県立劇場が徒歩圏内なので手軽に行けて楽しみです。一日も早い新型コロナウイルス感染症の拡大が収まることを願っています。

Q. 好きな言葉は？

A. 継続は力なりですね。今あるのは仕事を辞めずに続けていたからだと思っています。

Q. 好きな季節は？

A. 春、特に新緑と色とりどりの花をみるのが好きです。

Q. 好きな食べ物は？

A. 新鮮なものなら何でもおいしくいただいています。

Q. 休日の過ごし方は？

A. 食料や日用品の買い物は必須です。また、オンライン(Skype)による家族とのコミュニケーションも欠かせません。新聞や生命科学分野の研究論文もじっくり読めるので楽しんでます。



校長紹介

尚綱中学校 尚綱高等学校

はた
秦 すみ子 校長 平成30年4月就任

【プロフィール】

- 趣味 海外旅行・占い
- 好きな言葉 凛として 花一輪
- 好きな季節 春
- 好きな食べ物 スイーツ フルーツ
- 休日の過ごし方 料理(自粛期間にトライする時間が増えました)、掃除、癒しの音楽鑑賞



132年の歴史を持つ尚綱学園が果たすべき役割とは

現在、世界は誰も経験したことがない大きな試練をむかえています。その不安は、人種や社会的地位を超えて広がっています。自分さえ良ければ、自分の国さえ良ければといった考えは通用しません。今後、そのような世界で生きていく若者を育てるには、130年以上の歴史に裏打ちされた「建学の精神」を念頭に、おいた指導こそが、本学園が果たすべき役割に繋がっていきと考えています。急激な社会変化が進む中で、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質や能力を確実に育成し、その力を社会のために惜しみなく使える人間を育てていくことこそが教育の力であり、本学園の使命であると考えています。

生徒に望むことや励ましの言葉(生徒へのメッセージ)

昨今は、即戦力にならない文学や哲学より実学を重視する傾向があるように感じています。デジタル社会において確かにスキルも大事ですが、人間関係を円滑にして生活や仕事の質を向上させるためには、他者に対する思いやりや気配り、想像力と創造性、それに美的センスなど人ならではの物事を感じる力、つまり「感性」を磨くことが重要となります。感性は、物事を深く考え、深く見ることによって磨かれます。人生は見たり、聞いたり、試したりが大事です。経験を通して知識は初めて実践的な知恵に変わります。失敗を恐れず、まず挑戦すること。その経験を通して中学・高校時代に、そのみずみずしい感性を磨いてください。

新任教職員紹介

■尚綱大学・尚綱大学短期大学部
山縣 ゆり子(学長)

■尚綱大学現代文化学部／文化コミュニケーション学科
柳田 紀代子(教授)

■尚綱大学生活科学部／栄養科学科
今村 隆寿(教授)
實松 史幸(准教授)
野中 里佐(准教授)

■尚綱中学・高等学校
本田 孝廣(中学部長)
高村 竜志(教諭)
杉原 優輝(講師)
干場 カンナ(講師)
井上 裕介(中高事務室事務長)
栗崎 敬一(入試アドバイザー)

■尚綱大学／九品寺キャンパス
岩崎 かおり(職員)
牟田 絹子(職員)

■尚綱大学短期大学部附属こども園
福留 衣織(保育教諭)
渡辺 展枝(保育教諭)
青柳 詩織(養護教諭)
新原 輝正(職員)
福崎 由郎(職員)

■尚綱大学／武蔵ヶ丘キャンパス
井 美良野(職員)

(令和2年4月1日現在)

山縣学長のとある一日

スケジュール

A M	7:00	起床、掃除、洗濯、朝食など
	9:00	大学へ、本日の予定や近日中の締切事項の確認、メールのチェック
	10:00	常勤理事会
P M	12:00	お昼の休憩
	13:00	先生とのセンターに関する打合せ 決裁や書類の確認など事務的仕事
	16:00	講義準備(もしくは締切の原稿書きなど)
	18:00	帰宅
		食事準備・食事・入浴・本日のニュース メールのチェック・明日の資料の確認など
	24:00	睡眠

園長紹介

幼保連携型認定こども園 尚綱大学短期大学部附属こども園

ごとう かい ぞう
五嶋 改藏 園長 平成31年4月就任

【プロフィール】

- 趣味 ゴルフで身体機能を維持・向上しつつ、弱い自分の心に打ち勝つように鍛えることが趣味です。小さな庭で花と野菜を育て、鳥骨鶏を10羽ほど飼っています。
- 好きな言葉 「志」「仕事を通じて人生を楽しみ成長し、世のため人のためにつくこと」「うれしい、ありがとうございます、がんばります」
- 好きな季節 5月生まれですので、「五月晴れ」のさわやかな風が吹くころが好きです。
- 好きな食べ物 毎朝の「GOTOブレンド」を紹介しましょう。コップに豆乳を6割、鉄分・Ca強化牛乳を4割入れ、青汁の粉ときな粉と黒ゴマの混合粉と蜂蜜を入れて飲んでいきます。帰宅後のビールと刺身も何より楽しみです。
- 休日の過ごし方 ゴルフはコロナで休止中(2~6月)。孫たちと遊び成長を感じるのが楽しみです。自治会や青少協、プレイパークなど長嶺町のみなさんと一緒に楽しんでいます。



132年の歴史を持つ尚綱学園が果たすべき役割とは

お世話になってまだ1年と少ししか経っていない私にとってはたいそう大きな課題ですね。本学園にはステキな「建学の精神」があります。建学の精神は「理念」です。理念とは「達成すれば理想の人・学園になれる目標」のことです。それは不可能なことにも見えるけど目指し続けなければ達成できず、達成すれば確実に理想の人・学園になれる目標です。そのためには、目標と生き方を一致させることが肝要です。何を行うかを自分自身で決断し、迷いなく集中したただひたすらに実行することです。学園のみなさんで、誰にもできない領域まで徹底して継続し続ける、誰にもできる事を、誰しもが続けられないくらい徹底して続けることをとおして、社会的・教育的使命を果たしていきたいと思っています。

園長先生からのメッセージ

「使命」という言葉を前述しましたが、使命は義務ではなく「そうすることが私の道であるという自覚悟」のことです。使命感は「志」の原点です。人生の意味は何を成し遂げたかではなく「何を見つめて生きてきたか」です。人類のため社会のため、人のため自分の成長のためになる何かを見つめて一生懸命に努力・成長していきましょう。できれば、若いうちに「志」を抱くことが、より実り多い人生になると選悟過ぎると感じます。